

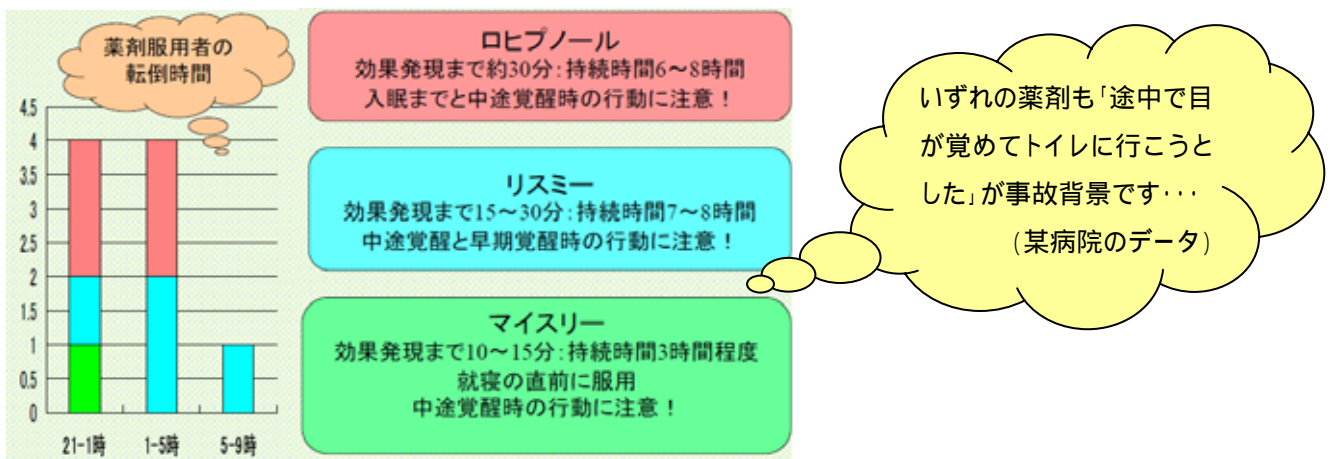
## 薬剤部 DI ニュース

## 医療安全管理について（シリーズ 8）

## ～ 眠剤と転倒転落リスクのチェックポイントについて ～

睡眠薬を服用している患者さんの転倒転落は全国的に見ても件数の多い医療事故です。「筋弛緩作用の少ない薬剤が安全」と言われていますが、転倒転落の数としてはあまり変わらないとの報告がなされています。対策の一つとして、眠りに関するどのイベントポイントで注意すべきかを医療者が認識することや、患者さんに事前に説明しておくことが重要となってきます。そこで今回はそのポイントにまとめましたのでご報告します。

## &lt; 睡眠薬の種類と転倒のリスク &gt;



## &lt; 当院採用睡眠薬の注意ポイント &gt;

	ハルシオン錠 トリアゾラム錠	マイスリー錠	アモバン錠	リスミー錠	ロヒプノール錠	ドラール錠
分類 (血中半減期)	超短時間型 (6hr前後)			短時間型 (12hr前後)	中間型 (24hr前後)	長時間型 (数日)
効果発現時間(min)	15	15	15-30	15-30	30	30
半減期(hr)	2.9	2	4	10	15 (7-25)	36.6 (36-110)
連用による蓄積性	なし	なし	なし	なし	あり	あり
翌朝までの 持ち越し効果	少ない	少ない	少ない	少ない	あり	あり
筋弛緩作用	+	±	±	±	++	±
<b>転倒転落に対する 注意時期</b>	中途覚醒時			中途覚醒時 早期覚醒時	入眠まで 中途覚醒時	
<b>記憶障害の頻度</b>	▲					

(参考: 2009.9.3研修会内容を改変)